

『桜鉄道殺人事件～夜の  
銀河列車～』

レオジマネス

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

pixivから来た方が多いんじゃないかと思いますが、pixivから移してきたやつです。

妖怪ウオッチは幼稚園や小学校向けなのですが、これは年齢層を上げたやつなんで、高校生や大人も楽しめる小説です。

# 目次

『桜鉄道殺人事件〜夜の銀河列車〜』第1話 事件の始まり	1
『桜鉄道殺人事件〜夜の銀河列車〜』第2話 犯人推理1	6
『桜鉄道殺人事件〜夜の銀河列車〜』第3話 犯人推理2	12



『桜鉄道殺人事件〜夜の銀河列車〜』第1話 事件の始まり

2016年今、史上最強の謎が始まろうとしている――！

〜花道商店街〜

ケイゾウ「いけいけいけ！ やっちまえ！」

フユニヤン「ガッツで決めろ！」

武夫「ガッツ仮面〜！」

嘉多有「いいぞ！ ガッツ仮面！」

旭替彌「ごり押しで行け！」

ガッツ仮面「ガッツレボリューション光線！」

ケイゾウ「うおっしや、勝った！」

ケイゾウ「……ってやべ！ もうこんな時間だ！ 早く家に帰らないと叱られる！」

フユニヤン「お前家あったのか？」

ケイゾウ「あるわ！ お前はいつも遅くまでバスターズの仲間と飲みにいってるから分

かんないだけだ！」

フユニヤン「ん？この前帰った時、ケイゾウいたぞ？」

ケイゾウ「お前が帰ったあとに俺が居るっかて。次の日、お前中で倒れてたぜ。」

フユニヤン「そういえば、あの日、4本も飲んだな。」

ケイゾウ「飲み過ぎだろ！」

フユニヤン「いや、皆にコールもらってつい、」

ケイゾウ「まあ取りあえず帰るぞ！」

→桜鉄道汽車内 1号車→

駅員さん「駅弁はいかがですか。」

ケイゾウ「じゃあ一つ。」

フユニヤン「ビールもあるか？」

駅員さん「ありますよ。」

フユニヤン「じゃあ一個。」

シユポツ

ゴクツゴクツゴクツ

フユニヤン「プハアアア！やっぱ酒は最高だ！」

ケイゾウ「フユニヤンお前なあ。」

客「ぐわあああああああああああああ！」

ケイゾウ「何だ！」

トタタタタタタツ

く桜鉄道汽車内3号車く

ザワザワザワ

ケイゾウ「何が起きた・・・うつ！」

ピンポンパンポン

アナウンス「汽車内で殺人が起きました、汽車を止めます。繰り返します。汽車内で殺人が起きました、汽車を止めます。」

パシヤパシヤ

岸辺刑事「死因は大量の出血だな。心臓が刺されとる。」

水谷捜査官「はい。今から10分前に殺害されたの事です。」

岸辺刑事「それにしても、何故犯人はこんな人前で、殺害出来たんだ？」

水谷捜査官「事件の前3号車にいた人は誰ですか？」

柄谷「僕は3号車に居ました。」

木嶋「俺は3号車に居たけど、寝てたぜ。」

水谷捜査官「あの一、それを見ていた人は居ませんか？」

柄谷「僕は木嶋さんと向かいの席だったから寝てたのを見てたよ。」

水谷捜査官「そうですか。では他に居ませんか？」

楓鐘「私は、一番奥の席に座ってました。」尾子鑿「ワシは真ん中で立っていた。」

岸辺刑事「もう他に居ないか！」

水谷捜査官「居ないようです。」

ケイゾウ「うゝん、何か引つ掛かるなあ。」

フユニヤン「どうしたケイゾウ。ほら、もう一本あるぞ。お前も飲めよ。」

ケイゾウ「未成年者に酒を勧めるな！」

岸野刑事「(うゝん、今のところだと真ん中で立っていた尾子鑿が怪しいが……)」

ケイゾウ「あれ？これ何だ？」

岸野刑事「ん？これは……！」

次回予告

フユニヤンと木嶋が酔っぱらう!! 運転手も登場! 岸野の推理……はなないけど、お楽しみに! 第2話 犯人推理I!

ケイゾウ「見てくれよなゝ！」

フユニヤン「プヒィィィ! 酒欲しいか」



バ  
コ  
ツ  
!

# 『桜鉄道殺人事件～夜の銀河列車～』第2話 犯人推理1

あらすじ

フユニヤンと家に帰ろうと汽車に乗ったケイゾウだが、汽車内で殺人事件が起こった！容疑者は5人。犯人を見つけ出せ！

～桜鉄道汽車内3号車～

岸野刑事「ん？これは・・・！」

岸野刑事「ちよつと、これは何？」

木嶋「ああ、これはブラベールと言う小さい物置だよ。」

水谷捜査官「あの一、それを見せて頂いても。」

木嶋「おう、別にいいけど。」

ガラガラ

岸辺刑事「なんだ、水浸しじゃないか。」

水谷捜査官「あるのは大量のイカだけです。」

フユニヤン「イカ？そうか分かったぞ！イカを凍らせてブサツと。」

ケイゾウ&岸野「お前は少し黙ってる！」

フユニヤン「ボフツ！」

尾子鑿「うゝむワシは見ていたが速すぎてよく分からなかった。それに少し『浮いた』ような気がする。」

懐鐘「私は、奥の方に居たから、叫び声が聞こえた頃には、犯人らしき人は居ませんでした。」

岸辺刑事「うゝむ今までの証言をまとめると、

・ 木嶋さんは寝ていた。

・ 木嶋さんのブラベーにはイカが入ってた。

・ 叫び声が聞こえた頃には犯人はその場に居なかった。

・ 犯人はとて速く、少し浮いてたような気がした。

「

岸辺刑事「犯人は一体……」

運転手「おやおや、現場はここですか。」

岸野刑事「あんたはこの運転手じゃ。」

運転手「そうですね、何か？」

岸野刑事「今日はいつも通りの運行だった？」

運転手「今日はいつも通りの運行ですが、明日が運休日なので、運行が終わりました

ら、掃除や点検などを、行います。」

岸野刑事「ほうほう。」

冬島警部「おう、今到着した。現場はどうなっている。」

岸野刑事「今は水谷らが頑張っているとところだけ！」

冬島警部「敬語を使えって……俺は別の事件で忙しいから頼んだぞ。岸野、」

冬島警部「サボるなよ。」

岸野刑事「俺がサボってんのバレたか……」

「new page」

ケイゾウ「8時40分か……説教確定だな。」

フユニヤン「それは大変だな。」

フユニヤン「俺と出会ってなければならなかったことだ……」

ケイゾウ「フユニヤン何か言ったか？」

フユニヤン「い、いや何でもない。」

木嶋「……ちよつとイカ食っていいか？腹減ったんだよ。」

岸野刑事「おいおい、生は危険だぞ。ちゃんと加熱しないと食中毒の原因にもなるん

だぞ。」

木嶋「大丈夫だよ。これは特別なイカだから、絶対腐らないし、生でも凄く美味しい

から、安心しな。」

フユニヤン「ほら、ビールあるぞ、一緒に飲むか！」

木嶋「お、それはいいな！じゃあ乾杯〜！」

フユニヤン「乾杯〜！」

岸野刑事「飲みすぎるなよ……」

ケイゾウ「そう言えば木嶋、何でブラベにイカが入ってたんだ？」

木嶋「よ、呼び捨て……ウチ漁師なんだ。今日は超大漁だったから、仲間ですて帰ったんだ。」

ケイゾウ「そうなのか。」

水谷捜査官「あ、今被害者の家族に電話が繋がりました。岸野刑事に替わって欲しいのことで、」

パッ

岸野刑事「もしもし？あ、息子さんか。うんうん、あー、はいはい。そうなのね。ほうほう、ふむふむ。そうか、じゃ。」

ピッ

水谷捜査官「何て言っていましたか？」

岸野刑事「どうやら、ここにいる乗客全員が被害者と関係があるようだ。まず、柄谷

さんと被害者は古くからの友達だったみたいで、木嶋と被害者は釣り仲間だったらしい。懐鐘さんと被害者は同じ職場で働いていて、尾子鑿さんと被害者は被害者のおじいさんの友達だった。これじゃあ誰が犯人かわかんねえなあ……タバコ吸ってこよ。」

（屋外）

岸野刑事「ふう、星が綺麗だな。」

ケイゾウ「お前そこに居たんだ。」

岸野刑事「お前じゃない。岸野だ。」

ケイゾウ「にしても、あいつらよく飲んでるようだな。」

岸野刑事「そうのようだな。ふう、」

ケイゾウ「早く家に帰りたいな。」

岸野刑事「こっちもだよ。水谷らがちゃんとしてくれたら、」

水谷捜査官「岸野刑事！大変です！来てください！」

岸野刑事「何だ!!ちよつと行ってくる！」

ケイゾウ「俺も行く！」

次回予告

岸野とケイゾウに襲いかかる謎！フユニャンも酔っぱらい、木嶋も同様に酔っぱらっ

てみんなのストレスも溜まり、捜査は難航する！

第3話、犯人推理2！お楽しみに！

岸野刑事「見逃すなよ！」

# 『桜鉄道殺人事件～夜の銀河列車～』第3話 犯人推理2

あらすじ

木嶋が捕ってきたイカ旨いなあ……ってそれはさておき、事件の全体像が掴めてきた岸野たちだが、岸野とケイゾウに新たな謎が襲いかかってくるのは言うまでもない……

～桜鉄道3号車～

水谷捜査官「大変です！被害者の遺体からこんなものが！」

岸野刑事「ん？何だよ、せつかくタバコ吸つ……」

岸野刑事「何じゃこりやあ！血で何か書かれています！」

水谷捜査官「きつとダイイングメツセージですよ！」

岸野刑事「ダイイングメツセージ……！ちよつとよく見させろ！」

はじくれはがいがらきらんかられじにがらきさくらだんぐじなさせたはくおじぶうたじさだらきんたじませてがはすれらきんあだせれらしゆ

岸野刑事「ちんぷんかんぷんだ……」



ケイゾウ「あ、ここにいたのかよ！」

岸野刑事「ん、ケイゾウか、これ見てくれよ。ダイイングメッセージなんだ。」

ケイゾウ「・・・分らんなく。さすがの俺でも解けないし・・・」

フユニヤン「あくん？何楽しそうなことしてんだ？」

バタン

岸野刑事「ほっとこうぜ。」

ケイゾウ「うん。」

運転手「捜査の方はどうですか？」

岸野刑事「あ、運転手さん。まあぼちぼちと言ったところ・・・」

運転手「早くしてくださいよ！」

岸野刑事「ウゲエツ。」

運転手「明日点検があると言ってきましたよね?! あんたのせいで、私が責任とらされるんですからね?!」

カチン

岸野刑事「おい！そう言う言い方はないだろ！こつちだつて必死なんだぞ！」

運転手「そつちが必死だろうがないだろうが、あんたが全部原因なんですよ！遅れたら責任とつてくれますよね?!」

楓謹 「あのく。喧嘩はよしませうよ。」

柄谷 「そうですよ。喧嘩してたら時間の無駄です。お互い協力しましょう。」

岸野刑事 「むう……。そうだが……」

榊羅 「おい！いつになったら帰れるんだよ！」

乗客A 「そうよそうよ！」

乗客B 「家で妻と子供が待つてるんだぞ！」

乗客全員 「そうだぞ！」

岸野刑事 「あく！うるさい！静かにしろ！」

水谷捜査官 「他のお客さんにも待たさないように出来るだけ犯人を探しましょう。」

岸野刑事 「そうだな。」

榊羅 「もういい！外に行く！」

岸野刑事 「おい！ちよ……」

柄谷 「行つちやいましたね。」

岸野刑事 「うん。」

木嶋 「うヴェい。おれさま酔いましたぜく。」

ドテン

岸野刑事 「木嶋まで……。もうどうにでもなれく！」

ケイゾウ「おいおい、そんなにムキになるなよ。」

岸野刑事「……………分かった。で、ダイニングメツセージの解説を……………やっぱ無理。」

ケイゾウ「諦めんのはや！」

岸野刑事「だつて無理なんでも〜ん。」

ケイゾウ「根性が足りないぞ！ガッツ仮面の修業するぞ！」

岸野刑事「え、ちよっ……………」

ケイゾウ「いくぞ！てれつてれて……………てれつ！ガッツ！」

岸野刑事「……………が、ガッツ！」

ケイゾウ「もう一回行くぞ！」

岸野刑事「え!!もう一回!!」

ケイゾウ「つべこべ言わず、やるぞ！」

岸野刑事「……………面倒くさ。」

一方その頃

く 桜鉄道 汽車外く

櫛羅「くそっ！イライラするぜ！」

ブルルルルブルルルル

榊羅 「ん、電話が。」

榊羅 「あ、駄喇壺？今俺が乗ってる汽車で事件があつてさ。なあに心配すんなつて。明日には帰れると思うからさ。じゃあな。」

ピッ

榊羅 「犯人分かつたらこの手でぶっ飛ばしてやりたいぜ。早く家帰りてえ。」

く 桜鉄道3号車く

岸野刑事 「はあ、はあ、やつと終わった〜！」

ケイゾウ 「今日はこれで終わりだ！」

岸野刑事 「今日!!まさか・・・明日も続くの!!」

ケイゾウ 「当たり前だ。」

岸野刑事 「勘弁してくれよ〜！」

難解不可能なダイイングメッセージ！榊羅と駄喇壺の関係も気になるところ・・・第4話「犯人逮捕！」これが最終回になるかも・・・

岸野刑事 「え？どうなるんだ？」

次回をお楽しみに！